軽井沢シンフォニックコーラス
TUTTI 第８号 2017.7.14

お見舞い電話　　真﨑隆治（バス）

朝７時ころ、携帯電話が大声で吠えまくり、地震がくるから身構えるようにと伝えてきました。身を固くし、息をひそめて、ずいぶん長いと感じた１分ほどを緊張してすごしてから、急いでテレビを見に行きました。長野県南部で震度５強の大きな地震が発生していました。軽井沢は微震すらなく、有難いような、申し訳ないような気分でした。やがて、かなんの遠藤さんから電話をいただきました。「地震大丈夫ですか。地震ときくと怖くて・・・」。僕はうれしさで温かくなりました。“遠く離れていてもいつも心配してくれている仲間がいる！ JOY とシンフォの交流は心の通い合っている関係なのだ。” それとともに、かなんの皆さんにはあの時の思い出がいまだに恐怖として残っている事実を再確認しました。風化させてはならないと改めて心に誓いました。

６年目の今年、僕たちが石巻を訪問します。仲間であることを手をとりあって感じあえる貴重な時間。歌も心もしっかり準備してその時を迎えましょう。

緑の音楽祭を終えて　　北村宗太（テノール・緑の音楽祭実行委員）

本年の音楽祭を無事に終えることが出来て，準備してきた実行委員会（各団２名）も７月の反省会を残すだけとなりました。シンフォニックコーラスの皆様の御努力と御協力に感謝致します。特に MC を担当してくださった岩越さん、ご苦労様でした。

「楽しいコンサートありがとうございました。毎年の開催でご苦労もあると思いますが羨ましいです。来年を楽しみにしています。」との嬉しいメールも届きました。ゲストを含めて９つの合唱団の歌唱の楽しさや個性が確かなものとしてお客様に届いたのでしょうか？ 感想や反省点などありましたら来年度の参考にぜひお聞かせください。

その来年ですが、当団が実行委員長の重責を担います。10 月に始まる月１回の会議を重ねて準備をします。大変とはいえ、10 年以上の開催歴がありますのでノウハウは十分にあり、いつ何をすべきかは細かく決まっていて安心です。だから誰が実行委員になっても問題なしとはいえ、実行委員長の責任はさすがに重く、音楽祭の大ベテラン大林さんとご一緒することで役目を果たしていきたいと思います。皆様の御協力のほどよろしくお願いいたします。

緑の音楽祭には目に見えないご苦労が多いことと思いますが、大林・北村コンビが３年連続で引き受けていただけることになり、心強いかぎりです。団としてもこぞって応援していきましょう。

パバロッティの思い出　　久保新一（バス）

歌う人歴は３年だが、聴く人歴は結構長い。学生時代はバイトに追われ、音楽とは無縁の生活だった。職を得た年の暮、同僚先輩に誘われ、神奈川県立音楽堂で読響の第九を聴いた。狭い木のホールに音が充満した。生のフルオケ初体験であった。以来、音楽堂友の会会員になり、定演通いを始めた。アルゲリッチもグールドもここで聴いた。

秋冷の夜、無名テナーの歌曲の夕べに、上さんと出かけた。ひげ面の大男がのっそりと現れ、右手をピアノにそえ、左手に白いハンカチをだらりとさげて立った。伴奏のピアノが静かに鳴り、歌い始めるや、割れがねのような響声が会堂に渦巻いた。これが人間の出す声かと耳を疑った。

終演後、３種類しかないＬＰから「パバロッティ、Ｘマスを歌う」を選び、サイン会の短い列に並んだ。サインを終えると、「明日テニスをしたいが、相手をしてもらえないか」とささやくような声が聞こえた。「残念だが、テニスはしたことがない」と答えて去った。
武道館満員というニュースを新聞で目にするのは、それからだいぶ後のことである。

歌うことの自分史（１）　　阿知波直樹（テノール）

歌うことが心地よいものとの感覚は多分小学校６年生の時に飛び入りで出場した校内のど自慢大会の時だったように思う。中学に入って音楽という科目に違和感が全くなく、教師が教えてくれた楽譜の読み方や初めてのピアノの課題もそれなりに楽しく、得意科目になっていたようだ。思春期なればこそ好きな女生徒を追っかけて、中学の合唱団に入ったのが、音楽に目覚めていくきっかけになったように思う。また音楽的に先を行く友人（長じて医者になる一方、アマオーケストラの指揮者になった）もいて、クラシック音楽の貴重なガイドとなってくれた。紆余曲折を経て、全国唱歌ラジオコンクールを中学・高校で体験し、だんだん歌うことが、生活の一部になっていった。大学受験に際し、高校の音楽教師から、国立音大の声楽科への進学を勧められた。しかし進学校であったので、教師の本気とかけ離れた冗談としてしか受け止めなかったが、歌うことへのある種自信を根付かせたように思う。
大学の男声合唱団を経て、イギリスでバーミンガム・バッハ・ソサイアティ（Birmingham Bach Society)、ロンドン・バッハ・ソサイアティ（London Bach Society）なる大規模合唱団を手始めに、東京で東京スコラ・カントールム（Tokyo Scola Cantorum)、アメリカでの24年余の滞在の中で、ニューヨーク、シンシナティ（Cincinatti・Ohio）という大都市を代表兎する複数の合唱団（いずれもオーディションあり）に所属し、一流オーケストラ、声楽家とも舞台を共にし、多彩で多様な演奏機会を得、夢のような時間でもあった。（続く）

☆７月11日の「木もれ陽」コンサートは温かく和やかな雰囲気のなかでいい会になりました。参加された皆さん有難うございました。

☆団員としてしばらく活躍されたサリーさんとジョエルさんが米国に帰国されることになりました。今後も時々来日される予定とのことですが、しばらくお別れです。７月14日の練習前にご挨拶にみえることになっています。ご健康とご活躍をお祈りします。

７～10月の予定（７時～９時３０分）

７月　７，14，28日
８月　４，11，25日
９月　１，15，29日　　敬老会（日時未定）
10月　６，13，20③、25（水）日　　10月25日は水曜日で、特別練習です
10月27日（金）出発、石巻で合同練習
10月28日（土）かなんJOYとの演奏会
打ち上げ

かなん関係スケジュールの詳細は後日お知らせします

運営会　７月21日　および　９月８日
８月は休会